

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【公表番号】特表2010-516796(P2010-516796A)  
 【公表日】平成22年5月20日(2010.5.20)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-020  
 【出願番号】特願2009-547634(P2009-547634)  
 【国際特許分類】

C 0 7 C 68/04 (2006.01)

C 0 7 C 69/96 (2006.01)

C 0 8 G 65/28 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 68/04 Z

C 0 7 C 69/96 Z

C 0 8 G 65/28

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年12月18日(2013.12.18)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0117

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0117】

オンラインIR測定のためのATR-FTIR(ATR=減衰全反射)：

反応の間、遊離プロピレンオキサイド(828 $\text{cm}^{-1}$ )の含有量、ポリエーテルカーボネートポリオール(1745 $\text{cm}^{-1}$ )のカーボネート含有量、及びプロピレンカーボネート(1814 $\text{cm}^{-1}$ )のカーボネート含有量を検出した。示された波数での吸収の集積面積は、相当するものの質量含有量を決定する役割を果たす。プロピレンオキサイドのみに基づいたATR-FTIRの較正を予め行った。ポリエーテルカーボネートポリオールのカーボネート含有量を $^{13}\text{C}$ -NMRにより測定し、プロピレンカーボネートの含有量をGCにより測定した。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0126

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0126】

実施例1： $S_C$ としてモノプロピレングリコールを用い、 $S_R$ としてポリプロピレンオキサイド( $M_n \sim 460\text{g/mol}$ ；ヒドロキシル価=242 $\text{mg KOH/g}$ 、 $F=2$ )を用いたポリエーテルカーボネートポリオールの調製； $F=2$ 、及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック

20リットル攪拌反応器中、 $S_R$ としてポリプロピレンオキサイド( $M_n \sim 460\text{g/mol}$ ；ヒドロキシル価=242 $\text{mg KOH/g}$ 、 $F=2$ )1950g、及び同じポリプロピレンオキサイド中の5.25%強度のDMC触媒懸濁液52.5gを、減圧(10 $\text{mbar}$ )下、130で1時間乾燥させた。水含有量は、0.008質量%であった。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0129

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0129】

実施例1に対する比較例1： $S_R$ としてポリプロピレンオキサイド ( $M_n \sim 460 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $242 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2$ )を用いたポリエーテルカーボネートポリオール調製の調製； $S_C$ の供給流なし； $F = 2$ 、及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック

20リットル攪拌反応器中、 $S_R$ としてポリプロピレンオキサイド ( $M_n \sim 460 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $242 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2$ )  $3755 \text{ g}$ 、及び同じポリプロピレンオキサイド中の5.25%強度のDMC触媒懸濁液  $48 \text{ g}$ を、減圧 ( $10 \text{ mbar}$ ) 下、 $130^\circ\text{C}$  で1時間乾燥させた。水含有量は、 $0.005 \text{ 質量\%}$ であった。

## 【誤訳訂正4】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0132

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0132】

実施例2： $S_C$ としてグリセロール及びジエチレングリコール (モル比 = 3 : 1) を用い、 $S_R$ としてグリセロール - ジエチレングリコール (モル比 = 3 : 1) ( $M_n \sim 1130 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $136 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2.75$ ) に基づくポリプロピレンオキサイドを用いたポリエーテルカーボネートポリオール調製の調製； $F = 2.75$  及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック

## 【誤訳訂正5】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0133

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0133】

20リットル攪拌反応器中、 $S_R$ としてグリセロール - ジエチレングリコール (3 : 1) ( $M_n \sim 1130 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $136 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2.75$ ) に基づくポリプロピレンオキサイド  $1957 \text{ g}$ 、及び同じポリプロピレンオキサイド中の6.0%強度のDMC触媒懸濁液  $46 \text{ g}$ を、減圧 ( $10 \text{ mbar}$ ) 下、 $130^\circ\text{C}$  で1時間乾燥させた。水含有量は、 $0.009 \text{ 質量\%}$ であった。

## 【誤訳訂正6】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0136

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0136】

実施例2に対する比較例2： $S_R$ としてグリセロール - ジエチレングリコール (モル比 = 3 : 1) ( $M_n \sim 1130 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $136 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2.75$ ) に基づくポリプロピレンオキサイドを用いたポリエーテルカーボネートポリオール調製の調製； $S_C$ の供給流なし； $F = 2.75$  及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック

## 【誤訳訂正7】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0137

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0137】

20リットル攪拌反応器中、 $S_R$ としてグリセロール - ジエチレングリコール（モル比 = 3 : 1）（ $M_n \sim 1130 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $136 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F = 2.75$ ）に基づくポリプロピレンオキサイド5960g、及び同じポリプロピレンオキサイド中の6.0%強度のDMC触媒懸濁液43gを、減圧（10mbar）下、130で一時間乾燥させた。水含有量は、0.007質量%であった。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0140

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0140】

実施例3： $S_C$ としてヒマシ油（ $M_n \sim 950 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $162 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F \sim 2.75$ ）を用い、 $S_R$ としてヒマシ油を用いたポリエーテルカーボネートポリオールの調製；官能性 $\sim 2.75$ 及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0144

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0144】

実施例3に対する比較例3： $S_R$ としてヒマシ油（ $M_n \sim 950 \text{ g/mol}$ ；ヒドロキシル価 =  $162 \text{ mg KOH/g}$ 、 $F \sim 2.75$ ）を用いたポリエーテルカーボネートポリオールの調製； $S_C$ の供給流なし；官能性 $\sim 2.75$ 及びポリプロピレンオキサイド末端ブロック